



当社は、HS財団動物実験認証施設です

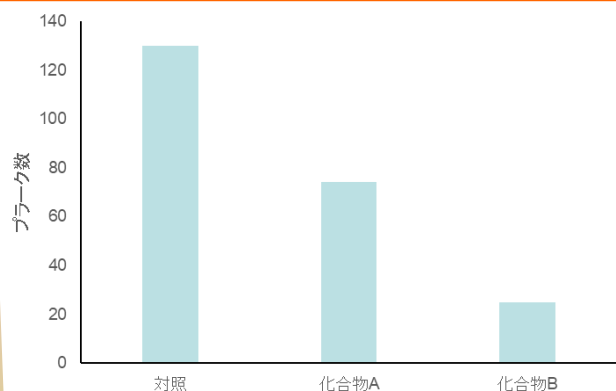
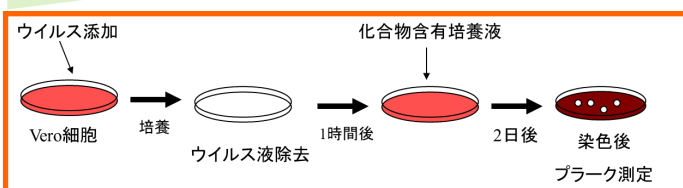


in vitro 感染試験

in vitro の感染試験は、開発候補化合物の薬理作用・毒性の機序解明やスクリーニングなどに利用でき、開発期間の短縮や効率化が期待されます。

今回は、NBRで実施している代表的な in vitro 感染試験をご紹介します。

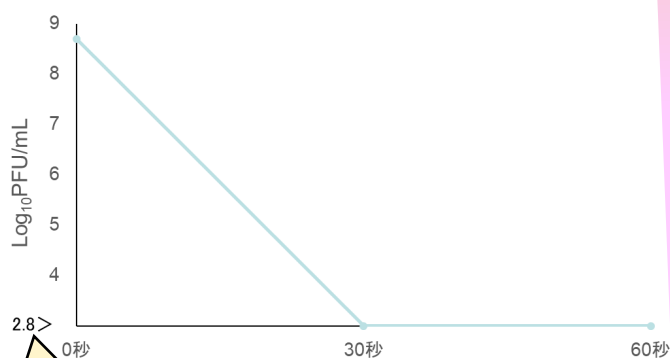
ヘルペスウイルス増殖抑制試験



インフルエンザウイルス不活化試験

試験方法:

消毒薬Aとインフルエンザウイルスを30秒あるいは60秒反応後の混合液を用いて、ウイルスプラーク数を測定

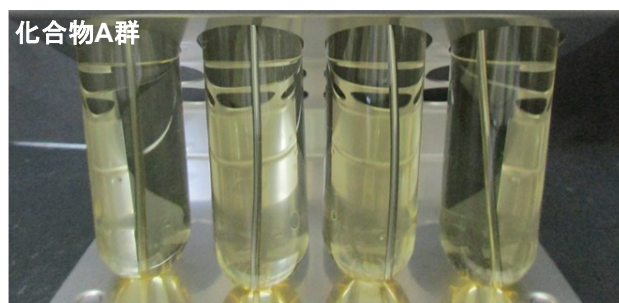


2.8 (検出限界) 以下

人工プラーク形成試験

使用菌株: *Streptococcus mutans*

試験方法: 菌培養液に針金をいれて、4日間培養後、針金に付着したプラークを確認する。



裏面は in vivo 感染試験 です。

《現在、in vivo にて以下のモデルの確立を行っています!》

- ・ラットを用いたロタウイルス感染モデル
- ・マウスを用いた尿路感染モデル



in vivo 感染試験

<呼吸器感染>

病原体	動物種	評価項目
インフルエンザウイルス（気道感染）	マウス	一般状態、肺のウイルス量、NK活性、生存率
インフルエンザウイルス（空気感染）	マウス、モルモット	一般状態、肺のウイルス量
RSウイルス（気道感染）	マウス	肺のウイルス量

<消化器感染>

病原体	動物種	評価項目
ロタウイルス	マウス（仔）	下痢症状、ウイルス量（糞便中）
Helicobacter pylori（ピロリ菌）	マウス	生菌数（胃内）
サルモネラ菌	マウス	生菌数（脾臓）
Clostridium difficile	ハムスター	生存率、下痢症状

<皮膚感染>

病原体	動物種	評価項目
黄色ブドウ球菌	マウス	病変度観察、生菌数（皮膚）
ヘルペスウイルス	マウス	病変度観察、疼痛評価
白癬菌	モルモット	病変度観察、生菌数（皮膚、爪）

<全身感染>

病原体	動物種	評価項目
MRSA	マウス	生存率、生菌数
カンジダ	マウス	生存率、生菌数
肺炎球菌	マウス	生存率、生菌数
耐性緑膿菌	マウス	生存率、生菌数

<病原体>

ウイルス	細菌	真菌
インフルエンザ、ヘルペス	黄色ブドウ球菌、MRSA、緑膿菌	カンジダ
ロタ、ノロ、ネコカリシ	サルモネラ菌、ミュータンス菌	白癬菌

in vivo 試験の検査項目として、免疫機能や遺伝子発現の二次委託による解析も実施しています！

遺伝子解析	免疫賦活化試験
遺伝子発現解析、ウイルス・マイコプラズマ検出 DNAシーケンス、SNPジェノタイプ解析 STR解析、データマイニングサービス	フローサイトメトリー解析 画像解析（蛍光顕微鏡） サイトカイン解析

